

別添 7 活動実施スケジュール

P: Planned ----→  
A: Actual =====→

成果“0”：全成果にまたがるもの

2005年度の活動	Planned Actual	11	12	1	2	3
国内において、プロジェクトチームの立ち上げ	P A		-----→ =====→			
ニカラグアにおいて、プロジェクトオフィス立ち上げの準備	P A					→ →
インセプションレポート案の準備	P A				-----→ =====→	

2006年度の活動 上半期	Planned Actual	4	5	6	7	8	9
インセプションレポート案の説明と協議	P A			→ →			
現地プロジェクト事務所立ち上げ	P A				-----→ =====→		
プロジェクト開始式の実施	P A			→ →			
合同調整委員会および技術委員会の設立	P A			→ →			
合同調整委員会の開催	P A			→ →			
中央技術委員会の開催	P A			→ →		→	
県・市技術委員会の開催	P A			→ →	→ →	→ →	→ →
基礎調査準備 国内・現地	P A	-----→ =====→			→ →		
基礎調査の実施	P A					-----→ =====→	
2006年度計画に基づいた機材・教材の供与・整備	P A				-----→ =====→		
第1回本邦研修の実施 (5月15日~27日)	P A		→ ==→				
ARH に関するドナー間連携強化のための活動の検討と実施	P A				-----→ =====→		
技術協力成果品作成チームの立ち上げ、デザインと作成計画の検討	P A					-----→ =====→	
<広報普及活動> 西語・日本語・英語プロジェクト紹介パンフレットの内容検討と原稿作成	P A					-----→ →	
ジョイセブ HP の中にプロジェクト紹介サイトの立ち上げ (日本語)	P A					-----→ →	

2006年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
合同調整委員会の開催	P A					→ →	
中央技術委員会の開催	P A		→		→		→
地方技術委員会の開催	P A		→	→	→	→	→
基礎調査の実施	P A	→ =====→					
基礎調査報告書の作成	P A	-----→ =====→				-----→ =====→	

日本人専門家によるPCMワークショップの実施	P A	→
PDM 見直し、評価指標選定、数値目標の決定、詳細活動の策定	P A	→ =====→
機材、教材・ツール、施設改善に関する2007年度以降の供与・整備・改善計画の策定	P A	→ =====→
2006年度計画に基づいた機材・教材の供与・整備	P A	→ =====→
第2回本邦研修の実施(10月10日~11月2日)	P A	--→ ==→
国内技術交換会(2県間)の実施	P A	→ (→Gra)
ARHに関するドナー間連携強化のための活動の検討と実施	P A	→ → → → → → → →
技術協力成果品作成チームの立ち上げ、デザインと作成計画の検討	P A	→ → → → → → → → → →
<広報普及活動> 西語・日本語プロジェクト紹介パンフレットの内容検討と原稿作成	P A	→ → → → → =====→
ジョイセフHPの中にプロジェクト紹介サイトの立ち上げ(日本語)	P A	→ → → → → =====→

2007年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
PDM改訂版の検討と承認	P A		→			→
合同調整委員会の開催	P A				→	→
中央技術委員会の開催	P A	→				→
地方技術委員会の開催	P A	→	→	→	→	→
2007年度計画に基づいた機材・教材の供与・整備	P A		→			→
ARHに関するドナーとの連携	P A				→	→
プロジェクト技術協力成果品試作品の作成	P A				→	→
<広報普及活動> プロジェクトHPの更新(日本語・英語)	P A		→	→	→	→

2007年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
合同調整委員会の開催	P A						→
中央技術委員会の開催	P A			→			→
地方技術委員会の開催	P A	→	→	→	→	→	→
中間評価の実施と評価の結果をふまえた次年度計画の検討	P A					→	→
第3回本邦研修の実施(10月8日~20日)	P A	--→					→
第1回技術交換研修(メキシコ)の実施(12月2日~9日)	P A			--→			→
国内技術交換会(拡大)の実施	P A		--→				→
国内技術交換会(2県間)の実施	P A			--→			→
技術協力成果品試作品の作成	P A						→

ARHに関するドナー間連携	P A	→	→	→	→
国内支援研究会の開催	P A	→	→	→	→
<広報普及活動> プロジェクト HP の更新 (日本語・英語)	P A	→	→	→	→
プロジェクト HP の開設 (西語)	P A			→	→

2008 年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
中央技術委員会の開催	P A		→			→
地方技術委員会の開催	P A		→	→	→	→
第 4 回本邦研修の実施	P A					→
プロジェクト技術協力成果品試作品の試行と改訂	P A				→	→
他県との拡大技術交換	P A		→			
ARHに関するドナー等との連携	P A		→	→	→	→
<広報普及活動> プロジェクト HP の更新 (日本語・英語)	P A			→		→
プロジェクト HP の更新 (西語)	P A					→

2008 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
合同調整委員会の開催	P A					→	→
中央技術委員会の開催	P A		→			→	
地方技術委員会の開催	P A	→	→	→	→	→	→
国内技術交換会 (拡大) の実施	P A		→				→
国内技術交換会 (2 県間) の実施	P A			→			→
技術協力成果品試作品の試行と改訂	P A						→
エンドライン調査の準備と支援	P A						→
ARHに関するドナー間連携	P A	→	→	→	→	→	→
国内支援研究会の開催	P A				→		→
<広報普及活動> プロジェクト HP の更新 (日本語・英語)	P A		→			→	
プロジェクト HP の更新 (西語)	P A		→				→

2009 年度の活動	Planned Actual	5	6	7	8	9	10
合同調整委員会の開催	P A			→			→
中央技術委員会の開催	P A		→	→		→	→

地方技術委員会の開催	P A	→ → → → → → → → → →
エンドライン調査および終了時評価調査の実施の支援	P A	→ =====→
終了時評価調査結果をふまえた分析と今後のプランの協議	P A	→ =====→
技術協力成果品案の改定と完成	P A	→ =====→
最終セミナーの開催	P A	→ →
他県との拡大技術交換の実施	P A	→ →
プロジェクト終了式	P A	→ →
ARHに関するドナー間連携	P A	→ → → → → → → → → →
国内支援研究会の開催	P A	(→) (→)
<広報普及活動> プロジェクト HP の更新 (日本語・英語)	P A	→ (→) → (→)
プロジェクト HP の更新 (西語)	P A	→ (→) (→)

成果 1 : 若者にやさしいサービス

2006 年度の活動 上半期	Planned Actual	4	5	6	7	8	9
基礎調査および日本人専門家による状況把握	P A					→ =====→	
ARH 保健サービスにかかる担当者のチーム編成	P A					→ =====→	
日本人専門家の指導と助言による ARH 保健サービスに関連した保健省のガイドラインのレビュー、ARH 保健サービスに関する現状把握ワークショップ	P A					→ =====→	
日本人専門家による一次二次連携会議の指導・助言	P A					→ ====→	

2006 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
基礎調査および日本人専門家による状況把握	P A					→ =====→	
ARH 保健サービスにかかる担当者のチーム編成	P A					→ ====→	
日本人専門家の指導と助言による ARH 保健サービスに関連した保健省のガイドラインのレビュー、ARH 保健サービスに関する現状把握ワークショップ、人材育成活動、研修計画策定	P A					→ =====→	

2007 年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
計画に従って保健医療従事者に対して研修を実施	P A			→ =====→		
一次・二次レベル間の一次・二次連携の仕組みに ARH の要素を包括	P A			→ =====→		

2007年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
計画に従って保健医療従事者に対して研修を実施	P A					→	→
研修成果が現場で実践されるようにフォローアップを実施	P A					→	→
研修、ワークショップ、モニタリング等で、二次レベルの保健スタッフと連携	P A					→	→
2007年度計画に基づき機材を供与・整備	P A					→	→
モニタリングの方法としくみを明確にする	P A					→	→

2008年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
計画に従って保健医療従事者に対して研修を実施（カウンセリング技術、YFS）	P A				→	→
研修が現場で実践されるためのモニタリングを実施	P A				→	→

2008年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
計画に従って保健医療従事者に対して研修を実施	P A	→				→	→
研修成果が現場で実践されるようにモニタリングを実施	P A					→	→
保健サービスのモニタリングの方法としくみを明確にする（成果3に関連）	P A					→	→

2009年度の活動	Planned Actual	5	6	7	8	9	10
フォローアップ研修の実施	P A					→	→
業務現場における実地研修のためのモニタリング	P A					→	→
保健サービスのモニタリングの方法としくみを明確にする（成果3に関連）	P A					→	→

## 成果2：ARHプロモーション

2006年度の活動 上半期	Planned Actual	4	5	6	7	8	9
基礎調査および現状把握のための日本人専門家によるオペレーショナル・リサーチの実施	P A					→	→
委員会の運営およびテーマに関して日本人専門家からの指導・助言	P A					→	→

2006年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
基礎調査および日本人専門家による状況把握	P A			→		→	→
ARH啓発普及にかかる担当者のチーム編成（IEC・BCC、思春期クラブ・思春期プロモーター等）	P A			→		→	→

別添 7 活動実施スケジュール

ARH 地域活動推進委員会の設立と開催	P A	→ → (⇒) (⇒)
委員会の運営およびテーマに関して日本人専門家からの指導・助言	P A	→ → → → → =====→

2007 年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
研修をうけたプロモーターによって、ピア活動が実践されるための仕組みを構築し活動を展開	P A					→ =====→
若者および住民参加型 ARH 活動の実施	P A					→ →
ARH 地域活動推進委員会の開催	P A		->			→
ARH 地域活動推進委員会の運営およびテーマに関して日本人専門家からの指導・助言	P A					→ =====→

2007 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
ファシリテーターを強化する研修、ワークショップを実施	P A			→			
思春期プロモーター導入研修を実施	P A		⇒ ⇒			→	
研修をうけた思春期プロモーターがピア活動を展開しやすいように環境やしくみを整備し、ピア活動を実施	P A			→			
作成された計画に沿って若者および住民参加型 ARH 活動を実施 (若者主体の ARH プロモーション・イベント)	P A			→		→	
2007 年度計画に基づき、機材・教材を供与・整備	P A			→			
市保健委員会 (ARH 地域活動推進委員会) を開催	P A		→			→	
現地 NGO と連携して ARH プロモーション活動を展開 (HIV/AIDS 啓発社会劇、デート DV)	P A					→	

2008 年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
思春期プロモーターのトレーニング	P A					→ =====→
研修をうけた思春期プロモーターによるピア活動の実践	P A					→ =====→
若者が主体となって、地域で ARH 啓発活動 (イベント) を実施	P A				→	
思春期クラブの活動をモニタリング	P A					→ =====→
市保健委員会 (ARH 地域活動推進委員会) への取り組みをモニタリング	P A		→			→

2008 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
ファシリテーターを強化する研修、ワークショップを実施	P A			→			
思春期プロモーターを強化する研修、ワークショップを実施	P A	⇒ ⇒	⇒ ⇒				⇒ ⇒
研修をうけた思春期プロモーターがピア活動を実施	P A			→			
作成された計画に沿って、若者が主体となって、地域で ARH 啓発活動 (イベント) を実施	P A			→			⇒ ⇒

思春期クラブの活動をモニタリング	P A	→ =====→
市保健委員会 (ARH 地域活動推進委員会) への取り組みをモニタリング	P A	→ →
現地 NGO と連携して社会劇による ARH プロモーション活動を強化	P A	→ =====→

2009 年度の活動	Planned Actual	5	6	7	8	9	10
フォローアップ研修の実施	P A				→		
思春期クラブ、チャルラ、イベントのモニタリングの実施	P A			→	→	=====→	
モニタリングの方法としくみを明確にする (成果 3 に関連)	P A			→	→	=====→	

### 成果 3 : ARH のマネージメント

2006 年度の活動 上半期	Planned Actual	4	5	6	7	8	9
若者および住民参加型 ARH 活動の手法について日本人専門家によるワークショップの実施	P A					→	
基礎調査および ARH マネージメントに関する現状の分析	P A				→		=====→

2006 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
基礎調査および日本人専門家による状況把握	P A					→	
ARH マネージメントに関する現状の分析と改善案の策定	P A					=====→	
保健省 ARH 指標を整備するための関係者に対するデータ収集、集計、報告に関する指導	P A					→	(→)

2007 年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
ARH に関する統計・モニタリング・評価について検討するテクニカル・チームの立ち上げ	P A			→		=====→
ARH に関するモニタリング・評価のツールを作成	P A				→	=====→
保健行政官が若者および住民の参加型の ARH 活動を実践するための研修を実施(前述、成果 2 若者エンパワーメント研修の記述参照)	P A					→
	P A					→

2007 年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
ARH に関する統計指標の選定と活用	P A			→			=====→
ARH に関するモニタリング・評価のツールを作成 (テーマにより、若者の参加と協力を得る)	P A				→		=====→
ARH 妊婦登録システム・妊婦健診フォローアップシステムの状況をモニタリング	P A				→		=====→
日本人専門家による若者および住民の参加型の ARH 活動を実践するためのマネージメントを強化する研修を実施	P A				→		=====→

別添 7 活動実施スケジュール

2008年度の活動 上半期	Planned Actual	5	6	7	8	9
ARHに関する指標を整備し、必要な指標・統計の入手	P A	(→)				=====→
ARHに関するモニタリング・評価のツールを作成し試行	P A					-----→ =====→

2008年度の活動 下半期	Planned Actual	10	11	12	1	2	3
ARHに関する統計指標の分析と活用について指導、強化する	P A			-----→			
ARHに関するモニタリング・評価のツールを試行し改善する（テーマにより、若者の参加と協力を得る）	P A						-----→ =====→

2009年度の活動	Planned Actual	5	6	7	8	9	10
フォローアップ研修の実施	P A					-----→	
ARHに関連した指標および統計を分析し活用するための情報システムのモニタリングの実施	P A					-----→	
ARHに関するモニタリング・評価のツールを試行し完成する（テーマにより、若者の参加と協力を得る）	P A					-----→	



8-1：成果毎の活動実績

活動の項目	活動内容
全ての成果に関連するもの	
実施体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インセプションレポート最終版が合同調整委員会で協議・承認された。(2006年6月)</li> <li>■ 現地プロジェクト事務所を開設した。(2006年6月)</li> <li>■ 合同調整委員会、中央技術委員会、地方技術委員会を開催し、技術的および運営上の協議を行った。(2006年-2009年)</li> <li>■ 各成果に関連した活動について、技術チームでとりくんだ。(2006年-2009年)</li> </ul>
ベースライン調査、PDMの見直し、評価調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎調査(ベースライン調査)を実施した(2006年8-10月)。基礎調査結果の報告会を開催し、保健省、県保健局、市保健課の思春期プログラム関係者に報告書を配布した。</li> <li>■ PCMワークショップを開催し、PDM改訂版案を作成した。(2006年11月)</li> <li>■ 基礎調査の結果をふまえ、カウンターパートとPDM改訂版案の指標について検討を重ね、目標値を設定した。(2007年8月)</li> <li>■ PDM改訂版(2版、PDM-2)が合同調整委員会で承認された。(2007年9月)</li> <li>■ 中間評価を実施した。承認されたPDM-2に沿って、中間評価調査団とカウンターパートによって合同評価報告書が作成され、合同調整委員会で承認された。(2008年2月)</li> <li>■ エンドライン調査を実施した。(2009年3-5月)</li> <li>■ 終了時評価を実施した。PDM-2に沿って、終了時評価調査団とカウンターパートによって合同評価報告書が作成され、合同調整委員会で承認された。(2009年7月)</li> </ul>
経験のモデル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロジェクトの経験を体系的に記述するために、年毎にそのプロセスをまとめ、「技術協力成果品(ガイドライン)作成企画書」(2007年3月)、「各種ガイドライン試行品」(2008年3月)、「ガイドラインテスト使用報告書」(2009年3月)を作成し、最終的に「技術協力成果品：プロジェクトの成果品および体系化された経験のガイドライン」を完成した(2009年9月)。</li> <li>■ プロジェクト・サイト以外の地域(エステリ市、マナグア、ヌエバセゴビア県、ホンジュラス国)と技術交換を実施した。(2008年、2009年)</li> <li>■ 保健省と合同で、プロジェクトの経験を発表するために、全国の県保健局およびARH関係ドナーや団体を招待し、ARH全国セミナー(プロジェクトの最終セミナー)を開催した。セミナー参加者は、プロジェクトの経験からの学びを生かして各県におけるアクションプランを作成した。(2009年9月)</li> </ul>
ARH関連の他ドナーおよび関連団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎調査の結果を、ARH関連のドナーおよび団体と共有した。(2006年-2007年)</li> <li>■ 保健省が他ドナーと連携して進めていた教材(思春期クラブおよびピア活動関連)および“保健統合ケアモデルにおける、思春期若者のためのサービスに関するプロポーザル作成のプロセスにプロジェクトも参加した。(2007年)</li> <li>■ UNFPAがエステリ市で実施していた思春期プロジェクトを日本人専門家が2006年に視察し、その後、そのプロジェクトと2008年に技術交換を実施した。</li> <li>■ UNFPAのARH地域会議に、当プロジェクトからカウンターパートと思春</li> </ul>

活動の項目	活動内容
	<p>期プロモーターがオブザーバー参加した。(2007年7月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保健省保健サービス総局主催で RH 関連ドナー間会議が開催され、当プロジェクトの概要と経験を紹介し、参加者と情報交換・意見交換をした。(2008年10月)</li> <li>■ ARH 関連ドナーと保健省のカウンターパートとともに、ARH 関連分野の保健省年間活動計画 2009 について協議した。(2008年11-12月)</li> <li>■ ユースフレンドリーサービス、ピア活動、ARH 統計指標、学校における ARH 教育等のテーマに関して、随時、ARH 関連のドナーおよび関連団体と情報交換・意見交換をした。(2007年-2009年)</li> <li>■ ARH 関連のドナー及び保健省のカウンターパートと、ARH の規範及び思春期の統合ケアのプロトコールの見直しと意見交換をした。(2009年7-8月)</li> </ul>
<p>その他（広報、JOCV との連携など）</p>	<p>&lt;広報活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 参加型プロセスを経て、プロジェクトのニックネーム「SakuRA」とロゴを決定した。(2006年)</li> <li>■ プロジェクトのウェブサイト（和文・英文・西文）を開設し、定期的に更新した。</li> <li>■ プロジェクト紹介パンフレット（和文・西文）を作成した。</li> <li>■ プロジェクトの普及および ARH 啓発のために、ロゴ入り研修グッズを製作した。</li> <li>■ 現地メディア（テレビ、ラジオ、新聞）を活用し、プロジェクトの活動を広く紹介した。</li> <li>■ 日本国内において、機関紙、学会発表等を通して、プロジェクトの活動を広く紹介した。</li> </ul> <p>&lt;JOCV との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロジェクトとの連携を前提に要請された JOCV（グラナダ県 8 名、ボアコ県 4 名）と、情報交換や活動において連携した。</li> <li>■ 現地再委託業務（HIV/AIDS 啓発社会劇活動）でプロジェクトと契約した NGO に配属されていた JOCV と連携した。</li> </ul> <p>&lt;二次病院との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロジェクトの地方技術委員会および研修に、二次病院の保健スタッフが参加できる機会を作り、二次病院における ARH の活動のきっかけを作った。</li> </ul>
<p>アウトプット 1：対象県の保健施設において、“ユースフレンドリーサービス”が提供され、ARH のサービスが改善する。</p>	
<p>成果 1 の活動の全体に関連すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎調査および日本人専門家の活動を通して、ARH 保健サービスの現状を把握し、ユースフレンドリーサービス（YFS）を強化するためにプロジェクトとしては「人材強化」と「環境整備」の 2 方向からアプローチすることが有効であることを明確にした。(2006年)</li> <li>■ グラナダ県保健局およびボアコ県保健局と YFS について合同会議を実施した。(2006年8月)</li> <li>■ 思春期若者にサービスを提供する保健医療従事者と、ファシリテーターのための研修プログラム案を作成した。(2007年2月)</li> <li>■ 県および市レベルのカウンターパート 10 名が、メキシコ研修に参加した。YFS について理解を深め、その実践のための各自の役割を明確にした。(2007年12月)</li> <li>■ ARH サービスの改善・向上に必要な診療機材を整備した。(2007年-2008年)</li> </ul>

活動の項目	活動内容
<p>ARH サービスを思春期の若者に直接提供している保健スタッフの技術と能力を向上する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ベルタ・カルデロン病院思春期リプロダクティブヘルスセンター研修担当者、同センターの研修の実績と経験を基に、当プロジェクトのための6日間の「保健医療従事者のための思春期カウンセリング研修プログラム」を作成し、2007年と2008年に研修を実施した。2008年は、2007年の経験をふまえ、また MOSAFC に合致するように、研修内容の一部改定と研修参加者の再検討をした。</li> <li>■ 思春期カウンセリング研修修了者から研修非受講者にカウンセリング技術が伝わるように、可能な限り、各保健基礎チーム（EBS）に一人は研修修了者を配置した。（2008-2009年）</li> <li>■ 思春期カウンセリング研修修了者に対して、フォローアップ研修を実施した。（2009年6月）</li> <li>■ 日常診療におけるカウンセリング技術の実践をモニタリングするための25項目をポスターにして保健施設の診察室に設置した。（2009年9-10月） （モニタリング・ツールに関しては「成果3に対応する活動」で記述する。）</li> </ul>
<p>思春期の若者のための保健施設的环境や雰囲気改善する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保健省の思春期統合プログラムにおける YFS の概念を確認し、この内容とプロジェクト・サイトにおける YFS 実例を紹介したテキスト「グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験、2006年7-8月」を作成した。（2006年7-8月）</li> <li>■ このテキストを基に、保健センターの思春期ケアの環境整備のために「少ない予算、少ない時間、少ない人材、少ないストレス」で実施可能な Mini-mini プロジェクトを導入した。（2007年1-2月）</li> <li>■ 具体的にどのようなことができるかを探るための「Mini-mini アイデアノート」を作成した。（2007年1-2,6-7月）</li> <li>■ 「実施可能な計画立案技術ワークショップ」を開催し、「Mini-mini アイデアノート」を基に保健センター毎に Mini-mini プロジェクト活動計画を立案し、冊子「グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサービスの経験2」としてまとめた。（2007年6-7月）</li> <li>■ それぞれの保健センターにおいて、各自の計画に基づき、Mini-mini プロジェクト活動の活動が実施された。[第一期：2007年8月-2008年2月] [第二期：2008年2月-7月] [第三期：2008年8月-2009年2月] [第四期：2009年2月-（カモアパ市保健センターを除く）]</li> <li>■ 各活動期間の終わりに Mini-mini プロジェクトの活動を評価し、その結果に基づきプロジェクトの方法に改善を重ねた。第二期以降は12保健センターで共通のテーマのもとに Mini-mini プロジェクトを実施することとし、“避妊具を求めて保健センターを訪れる思春期男性に対する YFS” というテーマを選定した。第三期には“避妊の情報を求めて保健センターを訪れる思春期女性に対する YFS” のテーマを追加した。第四期はプロジェクトの最終年にあたり、MOSAFC に合致させ、また、これまでの経験を踏まえた活動の発展形として「フレンドリーサービス宣言」の導入を決定し、今後も利用者の参加を得てフレンドリーサービスの向上に継続して努めることを確認した。</li> <li>■ 「フレンドリーサービス宣言」のポスターを作製し、保健施設に設置した。この活動は保健センターから始め、保健ポストに拡大した。（2009年）</li> <li>■ フレンドリーで理解しやすい教育・啓発情報ボードを作成する技術の向上のためにワークショップを実施し、「教育・啓発情報ボード作成に必要なミニ知識と技術ガイド」を作成した。（2009年2月）</li> <li>■ これらの Mini-mini プロジェクト活動の経験を、各活動期間の評価と次の計画立案の度に、冊子「グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサー</li> </ul>

活動の項目	活動内容
	<p>ビスの経験3」(2008年2月)、「グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサービスの経験4」(2008年8月)、「グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサービスの経験5」(2009年2月)にまとめた。また、最初からの一連の経験をまとめ、「グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサービスの経験・総集編」(2009年2月)を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第二期以降、Mini-miniプロジェクトに思春期若者が参加した。設定したテーマについて、思春期男性の参加を得て覆面調査を実施し実情を明らかにした。第三期には覆面調査に思春期女性も参加した。第四期は覆面調査ではなく、調査方法・調査項目・日時を保健センターに事前に連絡したうえで、思春期若者が保健センターを訪問し調査を実施した。(モニタリング・ツールに関しては「成果3に対応する活動」で記述する。)</li> </ul>
<p>アウトプット2: 対象県において、若者と地域が活発に参加し、ARHのプロモーション活動が強化される。</p>	
<p>成果2の活動の全体に関連すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎調査および日本人専門家の活動を通して、ARHのプロモーション活動の現状と、若者と地域の参加の状況について把握した。(2006年)</li> <li>■ ARHに関する地域診断のために、パイロット2市で質的調査およびワークショップを実施した。(2006年8月)</li> <li>■ 県および市レベルのカウンターパート10名が、メキシコ研修に参加し、メキシコ家族計画協会(Mexfam: La Fundación Mexicana para la Planeación Familiar)の情報・教材センターを視察した。カウン터パート自身が、思春期クラブのために思春期若者に魅力的な教材を吟味し調達した。若者主体の思春期クラブの運営、若者主体の教育・啓発活動、地域の支援について理解を深め、各自の役割を明確にした。(2007年12月)</li> <li>■ 2県の思春期プロモーターおよびファシリテーターの間で技術交換会議を実施した。(2007年-2008年)</li> </ul>
<p>思春期クラブを魅力的なARHの情報の拠点として発展させる活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保健省の思春期クラブの指針に沿って、11箇所の保健センターにおいて、思春期クラブの環境と機材を整備した。保健スタッフ、思春期若者、および地域の協力者がそのプロセスに参加した。(2006年-2007年)さらに、10箇所の保健センターと保健ポストの思春期クラブに現地研修用資機材を整備した。(2008年)</li> <li>■ プロジェクトの支援で強化された思春期クラブ(9市11箇所)のお披露目式が、ARH活動地域活動推進委員会の活動として実施された。</li> <li>■ 思春期クラブの若者による自主的な運営が行われるように、モニタリングと指導を行った。(2007年-2009年)</li> <li>■ 県内および2県間で、思春期クラブ間の視察・交流を実施し、クラブの効果的な運営を学び合う機会を提供した。(2007年-2009年)</li> <li>■ 2県の思春期若者およびファシリテーターとともに、思春期クラブの若者による自主的な運営のノウハウをまとめたガイド「思春期クラブのガイド: 思春期クラブを立ち上げよう・運営しよう」を作成した。(2009年8月) (モニタリング・ツールに関しては「成果3に対応する活動」で記述する。)</li> </ul>
<p>思春期プロモーターによるピア活動と、大人と協働で実施するARH啓発活動</p>	<p>&lt;ピア活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 保健省が教育リュック(MECA: Mochila Educativa Comunitaria para Adolescentes)のパッケージを使ったピア活動プログラムを導入し(2006年10月)、プロジェクトでもこれに沿ってピア活動を推進し、大人ファシリテーターおよび思春期プロモーターの研修を支援し実施した。(2006年-2009年)</li> <li>■ MECAを効果的に展開するために、思春期プロモーターとファシリテータ</li> </ul>

活動の項目	活動内容
	<p>一を対象に IEC/BCC ワークショップを実施し、マギーエプロンを用いて、思春期若者に魅力的で効果的なメッセージを伝える方法を強化した。(2007年1月, 11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 思春期若者の年齢に応じた IEC 活動を強化するために、ファシリテーターを対象に、思春期前の子どもに対する RH モデルセッション「おへその秘密」の研修を実施した。JOCV の協力も得て、学校で 8-10 歳の子供に RH の授業を実施した。(2008年11月-2009年)</li> <li>■ DV の分野を強化するために、現地 NGO (Ixchen Granada) に技術指導を委託し、思春期プロモーターとファシリテーターを対象にデート DV のテーマでワークショップを実施した。思春期プロモーターがピア活動を効果的に行えるように、ワークショップ・ガイドを作成した。(2008年)</li> <li>■ 思春期プロモーターが活動に取り組むインセンティブとして、バッチやシャツなどのプロジェクト・グッズや、思春期プロモーター証明書兼研修・活動記録カードを作成し活用した。(2007年-2008年)</li> <li>■ 思春期プロモーター、ファシリテーターおよび ARH 地域活動推進委員の活動への士気を高めるために、活発な思春期プロモーター、ファシリテーター、推進委員を表彰した。(2007年-2008年)</li> <li>■ 思春期プロモーターは、それぞれの活動計画に従って、思春期クラブ、学校、地域においてピア活動を展開した。(2007年-2009年)</li> <li>■ アクセスの難しい農村部への ARH 活動については、各市の状況に応じて、農村部の保健ポストに思春期クラブを設置し思春期プロモーターを育成しピア活動を展開する方法、保健省の遠隔地へのサービス拡大プログラムにピア活動を包括する方法、農村部で“健康祭り”を実施するときに ARH のテーマを取り上げる方法、農村部で活動を展開している NGO と連携して MECA を展開する方法等工夫して活動を展開した。(2007年-2009年)</li> </ul> <p>&lt;社会劇 Sociodrama の手法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現地 NGO (Casa de los Tres Mundos) に技術指導を委託し、各県で思春期若者による社会劇団を結成し、HIV/AIDS に対する差別と偏見および HIV/AIDS 予防の啓発をテーマにした社会劇を、中米エイズ会議 CONCASIDA2007 および各市で上演した。(2007年8月-2008年2月)</li> <li>■ 前年の経験をふまえ、RH の啓発をテーマにした社会劇を若者自身が企画し演じ、ピア活動を展開できるために、現地 NGO に技術指導を委託し(グラナダ県: APIMUNIC、ボアコ県: Teatro de Titeres JUGUEMOS Producciones)、グラナダ県は演劇で、ボアコ県は人形劇による社会劇の研修を実施し、10市において思春期クラブに社会劇チームが結成された。思春期若者たちは、この手法を用いて地域で ARH 啓発活動を展開した。(2008年7月-2009年)</li> </ul> <p>&lt;思春期若者と大人の協働で実施する ARH 啓発活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ パイロット 6市において、若者と大人の関係性の現状を把握し、関係を改善するきっかけを見出すための若者と大人の合同ワークショップを実施した。(2006年11-12月)</li> <li>■ 若者エンパワーメント研修を実施し、思春期プログラムを担当する県保健局、市保健課の保健スタッフ、思春期プロモーターおよび ARH 推進委員が協働で作業し、各市における若者主体の ARH 啓発イベントの計画を作成した。作成された計画に沿って、各市で ARH 啓発イベントを実施した。(2007年9-12月)</li> <li>■ 若者の参加を得て、前年の経験をもとに、大人と協働で実施する若者主体の ARH プロモーション活動(チャルラと啓発イベント)の企画・実施・評価</li> </ul>

活動の項目	活動内容
	<p>のためのガイドを作成しノウハウを体系化した。これを用いて ARH 啓発活動が実施された。(2008 年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ピア活動および啓発イベントの企画、準備、実施、ふりかえりのプロセスを随時モニタリングし指導した。(2006 年-2009 年)</li> </ul> <p>(モニタリング・ツールに関しては「成果 3 に対応する活動」で記述する。)</p>
<p>ARH プロモーション活動を支援するために、各市の市保健委員会を強化する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ パイロット 2 市で、地域づくり型保健活動 (SOJO model: System Oriented Joyful Operation model) の手法を用い、保健スタッフ、思春期若者、地域の ARH 推進協力者が協働し、ARH に関して地域における望ましい状態を具体的に記述し、それを実現するための条件を分析した。(2006 年 8 月) カウンターパートの異動がなかった 1 市でフォローアップを行い、事例としてまとめた。(2007 年-2008 年)</li> <li>■ ARH 地域活動推進委員会についてカウンターパートと協議し、市保健課が運営するマルチセクターのメンバーで構成されている「市保健委員会」(既存)において、ARH のテーマを協議する、あるいは、同委員会の中に思春期部会を立ち上げることを決めた。(2007 年 1 月)</li> <li>■ 住民参加と保健行政ワークショップにおいて、各市の保健スタッフが、市保健委員会の組織と機能を測る“ものさし”を作成し、現状を評価した。この“ものさし”作成の過程で、ARH 啓発のための市保健委員会の望ましい姿が具体的に記述され、それを実現させるための活動計画を作成した(2007 年 11 月)。フォローアップのワークショップを実施し、今後も市保健委員会の改善活動を継続することを確認した(2008 年 10 月)。</li> <li>■ 市以下の小さい地域(保健センターや保健ポストの管轄)の単位でも保健委員会を持ち、ファシリテーターと若者代表も参加し、ARH 啓発普及に取り組んだ。(2007 年-2009 年)</li> <li>■ 市庁が主催している「思春期と子供の審議会」の機会も活用し、ファシリテーターと若者代表も参加し、ARH 啓発普及に取り組んだ。(2007 年-2009 年)</li> </ul> <p>(モニタリング・ツールに関しては「成果 3 に対応する活動」で記述する。)</p>
<p>アウトプット 3：対象県において、ARH に関する活動のためのマネージメントの仕組みが促進される。</p>	
<p>保健省の情報システムの統計指標から、プロジェクト活動のモニタリングに有効で実用的な ARH 指標を導入する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎調査および日本人専門家の調査により、ニカラグアの ARH 統計、情報システム、モニタリングシステムの現状が把握された。(2006 年)</li> <li>■ 県および市レベルのカウンターパートと、参加型のプロセスを経て、現場の活動のモニタリングに有効で実用的な ARH 指標を選定した。(2007 年)</li> <li>■ 指標を試行した結果、指標と報告の方法、及び分析について更なる改善の必要性を認め、ARH 指標を改訂し、ガイドを作成し研修を実施した。(2008 年)</li> <li>■ 新しい方法による報告を開始した。実施状況をモニタリングし、フィードバックのワークショップを実施した。(2009 年)</li> <li>■ ARH に関する指標について中央技術委員会で報告し、全国的な ARH 指標の整備の可能性について協議をした。(2009 年)</li> </ul>
<p>プロジェクトの活動のモニタリングのために、保健スタッフおよび思春期若者とマネージメン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 思春期カウンセリング研修で習得された技術が現場で実践されていることを確認するために、ベルタ・カルデロン病院思春期センターの協力を得て、直接観察によるモニタリングを行うためのツールを作成、試行し、改定した。(2008 年-2009 年)</li> <li>■ YFS 改善活動の実施過程および結果を記録し発表するためのツールのひとつとしてデジタルカメラを供与した。「デジタルカメラの使用と報告書や</li> </ul>

活動の項目	活動内容
ト・ツールを作成する活動	<p>教材への写真の活用ガイド」を作成し、デジタルカメラの正しい取り扱いおよび報告書や教材への写真の活用と注意点についての研修を実施した。(2007年6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ YFS を客観的に記述するために、保健スタッフによる YFS 自己評価スケールを作成し、2008年2月と2008年8月に各保健センターの自己評価を実施した。2009年1月には、このスケールを改定して思春期若者による YFS 評価スケールを作成した。これを用いて思春期若者が保健センターの YFS 調査を実施し、ツールの有効性を確認した。</li> <li>■ 保健スタッフと若者ととも、思春期クラブをモニタリングするためのツールを作成、試行し、改定した。(2009年8月)</li> <li>■ 「チャルラとプロモーション活動の企画・実施・評価のためのガイド」をもとに、保健スタッフと若者の参加を得て、プロモーション活動をモニタリングするためのツールを作成、試行し、改定した。(2009年8月)</li> <li>■ 市保健委員会の組織と機能を測るツール“ものさし”を、2007年に、各市の保健スタッフと参加型の手法を用いて作成した。2008年に市保健委員会のフォローアップのセッションを実施し、ツールの有用性と応用の可能性、今後の活用方法についても検討した。</li> <li>■ 保健スタッフと若者ととも、統合的にモニタリングするためのツール「ARH分野のモニタリングガイド」を作成、試行し、改定した。(2009年8月)</li> </ul>
ARHのために計画、モニタリング、監督、評価のシステムを強化する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 本邦研修に保健省と県保健局のカウンターパートが参加し、ARH保健サービスおよび啓発活動に積極的にとりくむために必要なマネジメントについて、ニカラグアにおける課題を明らかにした。(2006年5月、2006年10月、2007年10月、2008年9月)</li> <li>■ 妊婦登録システム、妊婦健診フォローアップシステムについて、プロジェクトでモニタリングを行った。保健省が他ドナーと構築したプログラムが機能しており、保健省のしくみのなかで管理および指導が実施されていた。(2007年)</li> <li>■ 県保健局および市保健課の年間活動計画に ARH のテーマを明記した。(2007年-2009年)</li> <li>■ 地域における ARH 啓発の推進のために、市保健委員会の年間計画に ARH のテーマを明記した。(2007年-2009年)</li> <li>■ プロジェクトで導入した ARH の統計システムを用いて分析し意思決定に活用する能力を強化するためのワークショップを実施した。(2009年)</li> <li>■ 県保健局の既存の計画、モニタリング、監督、評価のシステムに統合させて、ARH 分野の同システムを強化する活動を行った。(2008年-2009年)</li> <li>■ ARH 啓発活動を実施するための予算確保の経験を集めた。これをふまえてプロジェクト終了後の予算確保の方法を協議した。(2007年-2009年)</li> <li>■ プロジェクトの成功した経験の継続と発展のために、県保健局および各市保健課は2012年までの ARH 活動宣言を作成し表明した。これらの宣言のパナーを作成し、県保健局、市保健課、保健施設に設置した。(2009年10月)</li> </ul>

8-2: 現地研修・活動実績 (2006年6月～2009年10月)

研修・活動	実施のべ日数	参加者のべ人数																																
		保健省	保健スタッフ														思春期プロモーター								その他					合計 (ニカラグア人)	JOCV			
			グラナダ県							ボアコ県							グラナダ県				ボアコ県				他県保健局	思春期若者	地域活動推進委員会及び地域の関係者	教育省及び学校関係者	その他					
			市保健課/一次保健施設				グラナダ県病院			市保健課/一次保健施設				ボアコ県病院			グラナダ市	ナンダイメ市	デイリオモ市	デイリア市	ボアコ市	テウステペ市	サンタルシア市	サンホセ市								カモアパ市	サンロレンソ市	ボアコ市
成果1	YFS研修	28	1	36	47	14	17	11	35	22	13	10	12	11	14	19	0	7	4	5	4	15	0	0	0	0	7	0	18	0	0	47	369	9
	カウンセリング研修	37	0	39	176	79	38	25	52	17	54	35	28	34	43	76	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	766	37
成果2	思春期保健の質的調査ワークショップ	4	0	1	0	0	0	21	0	0	5	1	1	1	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	4	1	11	68	2	
	IEC・BCC研修	16	0	17	29	8	10	8	0	6	9	11	6	9	10	23	0	36	19	2	6	16	6	17	8	8	19	0	8	5	15	24	335	15
	住民参加と保健行政研修	18	0	24	28	10	10	18	0	18	22	9	8	10	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	1	9	40	262	11	
	地域活動推進委員会	13	3	18	15	9	10	10	0	11	3	1	3	4	1	3	2	14	0	0	0	14	1	21	1	2	1	0	127	651	1	12	938	10
	若者プロモーター研修	270	2	43	79	25	35	29	0	39	60	25	54	25	15	75	0	720	197	279	174	143	225	161	130	74	160	0	1651	60	41	109	4630	38
成果3	PCM関連ワークショップ	10	6	27	13	7	9	11	0	28	10	6	9	7	12	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	3	1	8	173	0	
	大人ファシリテーター研修	13	1	45	73	23	33	17	25	9	17	7	8	9	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	314	7	
	モニタリング・評価研修	7	2	30	34	16	16	11	4	6	5	3	5	4	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	19	167	5	
経験普及	最終セミナー	2	15	37	27	5	3	4	0	17	0	0	0	0	0	0	0	100	30	15	12	0	0	0	5	0	0	60	0	16	7	49	402	2
	ガイドライン普及ワークショップ	3	0	4	8	1	2	2	0	6	3	1	1	2	1	4	0	53	13	8	9	23	13	20	15	11	21	0	50	12	9	46	338	2
合計		421	30	321	529	197	183	167	11	179	201	109	135	116	119	230	24	930	263	309	205	211	245	219	159	95	208	60	1918	752	84	448	8,762	138



## 別添9 現地再委託業務

年度	活動/テーマ	期間	場所	再委託先/実施者	成果
2006	基礎調査	2006年7月～ 2007年1月	グラナダ県、 ボアコ県	ALVA [コンサルタント]	プロジェクトに関連するARHサービスの現状、ARH関連情報管理システム、サービス提供者の研修の状況、ピアの活動、ARH啓発活動の現状等を調査し、報告書を作成した。また、これらの調査結果のプレゼンテーションを行った。
2007	HIV/AIDSに対する差別と偏見	2007年8月～ 2008年1月	グラナダ県、 ボアコ県	Casa de Los Tres Mundos (三つの世界の家) [NGO]	若者の感性に訴える社会劇の手法を用いて、また、若者自身が社会劇を演じることを通して、思春期若者のHIV/AIDSに対する差別と偏見をなくすこと、また、コンドームの利用やHIV検査の利用について啓発した。思春期プロモーターを中心メンバーとする社会劇チームを各県1つずつ編成し、11月の中米エイズ会議での上演に始まり、12月までに10市すべてにおいて上演した。若者はもちろん地域の大人へも大きなインパクトを与えた。
	思春期若者男女間の暴力	2008年1月～ 3月	グラナダ県、 ボアコ県	Centro de Mujeres Ixchen Granada (グラナダIxchen女性センター) [NGO]	思春期若者が、親密な関係にある若者間の暴力「デートDV」について理解し、ジェンダー・バイアスを学び、相手を尊重する関係の作り方を学ぶことができるワークショップを実施するために必要な実践的ツールが作成された。これを用いてファシリテーターと思春期若者に対してワークショップを実施した。
2008	若者による地域におけるARH啓発普及活動のスキル向上	2008年7月～ 2009年2月	グラナダ県、 ボアコ県	グラナダ県:社会劇(演劇) APIMUNIC [NGO] ボアコ県:社会劇(人形劇) Teatro de Titeres JUGUEMOS Producciones [NGO]	思春期クラブの啓発・教育活動の一つの手法として、若者の感性に訴える社会劇(グラナダ県は演劇、ボアコ県は人形劇)を用い、思春期若者による自主的・効果的なARH啓発活動が展開されるようにトレーニングを実施した。ARHの多様なテーマを取り上げて、各地域で社会劇発表会が行われた。さらに、学校やコミュニティでこの手法を用いたピア活動が展開された。

## 別添10 現地業務費実績

(単位：円)

	費目	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	合計
(1)	備人費	23,750	6,512,207	6,948,227	7,154,237	3,632,189	24,270,610
(2)	機材保守・管理費	0	592,496	1,118,212	588,722	444,823	2,744,253
(3)	消耗品費	14,651	705,502	751,018	830,002	828,499	3,129,672
(4)	旅費・交通費	0	62,559	82,821	49,347	25,345	220,072
(5)	通信・運搬費	0	416,438	347,449	117,423	74,328	955,638
(6)	資料等作成費	626	314,660	760,444	1,189,127	2,177,942	4,442,799
(7)	借料損料	124,684	2,724,200	930,744	844,719	1,608,464	6,232,811
(8)	施設・設備維持管理費	0	0	352,322	37,144	29,873	419,339
(9)	現地研修費	0	2,177,145	1,595,124	1,492,189	664,306	5,928,764
(10)	雑費	0	0	0	60,670	185,451	246,121
(11)	供与・携行機材 (千円未満調整後)	0	13,129,000	8,501,000	604,000	0	22,234,000
(12)	その他機材購入費 (千円未満調整後)	0	0	0	240,000	0	240,000
(13)	ローカルコンサルタント契約 (千円未満調整後)	0	5,000,000	0	0	0	5,000,000
(14)	ローカルNGO契約 (千円未満調整後)	0	0	2,597,000	1,548,000	0	4,145,000
(15)	会議費 (千円未満調整後)	0	0	434,000	0	0	434,000
	合計	163,711	31,634,207	24,418,361	14,755,580	9,671,220	80,643,079

注： 2009年10月31日現在

別添11 カウンターパートリスト

保健省

職務	2006												2007												2008												2009									
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
保健大臣	Lic. Margarita Gudián												Dra. Maritza Cuan												Dr. Guillermo González																					
計画開発総局長	Dr. Rodolfo Correa Oquel (J1)												Dr. Alejandro Solís																																	
保健サービス総局長	Dra. Aurora Velásquez (J1*)												Dra. Liana Vega																								Dr. Carlos Jarquín González									
保健啓発予防分野コーディネーター→保健啓発局長、保健サービス総局内(以下DGSS)	Lic. Ligia Juárez																								Dr. Jorge Orochena																					
保健サービス規範局長、DGSS																									Dra. Clelia Valverde (J4****)																					
女性の統合ケアコーディネーター、DGSS	Dr. Wilmer Befeta (J3***)																																													
思春期の統合ケアコーディネーター、DGSS	Dra. Adalgisa Dávila																								Dra. Clelia Valverde (a.i)												Dr. Roberto Martínez									
子どもの統合ケアコーディネーター、DGSS	Dra. Jeaneth Chavarría (J2**)																																													
HIV/AIDSプログラムコーディネーター、DGSS	Dr. Roberto Jiménez												Dra. Sara Moraga																								Dr. René Villalobos (a.i) Dra. Clelia Valverde									
保健サービス機関間調整コーディネーター、DGSS	Dra. Dinhora Corea (J2)																																													

注: \*J1= 第1回本邦研修  
 \*\*J2= 第2回本邦研修  
 \*\*\*J3= 第3回本邦研修  
 \*\*\*\*J4= 第4回本邦研修

グラナダ県

場所	職務	2006												2007												2008												2009									
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
グラナダ県保健局	県保健局長	Dra. Josefina Cabrera Lugo (J1*)						Lic. Nora Orozco (J3***)						Dr. Omar Malespín																																	
	保健行政担当	Dr. Rafael Gutiérrez																																													
	女性の統合ケア担当	Dra. Gladys Ramos																																													
	思春期の統合ケア担当	Lic. María Mercedes Aragón (J4****)																																													
	啓発予防担当	Dra. Patricia Vindel (J3)																								Dra. Rosa Reyes																					
	思春期クラブ担当 性感染症・ HIV/AIDS担当	Lic. Carmen Guerrero Salas												Lic. Said Morales																																	
グラナダ市	市保健課長	Dr. Feliciano Rocha						Dr. Oriando Peralta						Dr. Eladio Meléndez						Dra. Patricia Vindel																											
	思春期の統合ケア担当	Lic. Sora Méndez																																													
	ホルヘ・シンフォロツ・プラボ保健センター長	Lic. Luz Marina Montes						Dra. Yetty Vásquez						Dra. Rina Mayela Ruiz												Dra. Mirna Orozco																					
	ホルヘ・シンフォロツ・プラボ保健センター思春期担当	Lic. Sonia Obando												Lic. María Adela Galeano						Roberto Carlos Mejía																											
	ピジャ・サンディーノ(保健ポスト)保健センター長	(P/S)						(C/S nuevo)						Dra. Rina Mayela Ruiz												José René Lic. Ma. Eliana Am. José René Soza						Dra. Rina Maye José René Soza															
	ピジャ・サンディーノ保健センター思春期担当													Aux. Enf. José René Soza (#M****)																																	
	バルミーラ保健センター長	Lic. Isabel Useda																																													
	バルミーラ保健センター思春期担当	Lic. Gladys Casallilo																								Fredy José Aburto Flores																					
ナンダイメイ市	市保健課長	Dr. Manuel Cruz												Dr. Alvaro Urroz						Dr. Felix González																											
	思春期の統合ケア担当	Lic. Gioconda Rodríguez (#M)																																													
テリオモ市	市保健課長	Dra. Rosa Reyes												(C/S nuevo)						Dr. Manuel Alenda						Dra. Marisol Zepeda																					
	思春期の統合ケア担当	Lic. Nidia López												Lic. Maritza Mallo						Lic. Manuela Narváez (#M)																											
テリア市	市保健課長	Dra. Rosa Heredia Molina																																													
	思春期の統合ケア担当	Lic. Donald Hernández (#M)																																													

注: \*J1= 第1回本邦研修  
 \*\*\*J3= 第3回本邦研修  
 \*\*\*\*J4= 第4回本邦研修  
 \*\*M= 第三国研修(メキシコ)

ボアコ県

場所	職務	2006												2007												2008												2009									
		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10							
ボアコ県保健局	県保健局長	Dr. Armando Incer Toledo (J1*)												Dr. José Eduardo Reyes (J3***)												Lic. Manuel García Noguera												Dra. Miriam Elizabeth Peña Dr. Sammy Pérez Moreno									
	保健行政担当	Dr. Mario Icaza																																													
	女性の統合ケア担当	Lic. María Haydee Robles L. (J2**)												Lic. Georgina Sánchez Molina (J3, #M****)																								Lic. Hulda Lechado (a.i.)									
	思春期の統合ケア担当	Dr. José Javier Quiroz												Dr. Flavio Morales												Dr. Oltan Miranda Uri Dra. Haydee López Sequeira												Lic. Petrona Salvadora Dra. Haydee López Sequeira									
	啓発予防担当 性感染症・HIV/AIDS担当	Dra. Sheyla Solorzano Dr. Cristobal Quiroz (J4****)																																				Lic. Rolando Guerrero									
ボアコ市	市保健課長	Dr. Haldame Varela												Dra. Angélica López (#M)																								Dra. Ma. Carolina Salinas Zelaya									
	思春期の統合ケア担当	Dra. Marielos Sed Dra. María E. Aragón												Dr. Mixel Rosales (#M)																								Dra. Marlen Álvarez									
カモアバ市	市保健課長	Dra. Luisa Castrillo Dr. Rafael Borge												Dr. Ricardo García												Dra. Caridad Duarte												Dra. Alyeris González López									
	思春期の統合ケア担当	Dra. Ana Isabel Silva Dra. Dorotea Reyes												Dr. Manuel de Jesús Mairena												Dra. Yajaira Bonilla												Dr. Andres Brenes									
サン・ロレンソ市	市保健課長	Dr. Horacio Moreno																																													
	思春期の統合ケア担当	Dra. Elvira Castilla (#M)																																													
テウスデベ市	市保健課長	Dra. Nereyda Pasquier												Dra. Amada Montalvan (#M)												Lic. Marvin Sánchez Sánchez												Dra. Ligia M. Reyes									
	思春期の統合ケア担当	Lic. Reyna Jirón												Dra. Nereyda Pasquier																								Lic. Mirna Obando Hurtado Lic. Engel Vale Enf. Cinthya Rodríguez									
サンタ・ルシア市	市保健課長	Dr. Roberto Saravia												Dr. Jorge Luis Zeledón																								Dra. Sonia Espinoza									
	思春期の統合ケア担当	Dra. Sonia Espinoza Dr. Emilio Pérez																																				Lic. Milagros Angulo Romero									
サン・ホセ市	市保健課長	Dra. Valeska Castro												Dr. Victor Delgado																								Dr. Emilio Pérez Dra. Valeska Castro (a.i.) Dra. Lucrecia Cerdá									
	思春期の統合ケア担当	Dr. Mario Peralta												Dr. Lorgio Pérez (#M)																								Lic. Elizabeth Largaespada									

注: \*J1= 第1回本邦研修  
 \*\*J2= 第2回本邦研修  
 \*\*\*J3= 第3回本邦研修  
 \*\*\*\*J4= 第4回本邦研修  
 \*\*M= 第三国研修(メキシコ)

## 別添12 技術協力成果品リスト

テーマ	タイトル	様式	著者・ 編集担当		
日常診療におけるカウンセリング技術の実践					
	カウンセリング技術実践項目のポスター、2009年6月.	ポスター	村上、高木		
	カウンセリング技術実践モニタリングのリスト、2009年2月.	リスト	村上		
ユースフレンドリーサービス					
	グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験、2006年7-8月.	本	村上		
	Mini-miniアイデアノート、グラナダ県バージョン、2007年1月.				
	Mini-miniアイデアノート、ボアコ県バージョン、2007年7月.				
	グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験2、2007年6-7月.				
	グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験3、2007年8月-2008年2月.				
	グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験4、2008年2月-7月.				
	グラナダ県・ボアコ県保健局のユースフレンドリーサービスの経験5、2008年8月-2009年2月.				
	グラナダ県・ボアコ県保健局ユースフレンドリーサービスの経験・総集編、2009年2月.				
	フレンドリーサービス宣言のポスター、2009年2月.			ポスター	
	保健スタッフによるフレンドリーサービス自己評価スケール、2008年.			リスト	
	思春期若者による評価のためのフレンドリーサービス評価スケール、2009年.	リスト			
	デジタルカメラの使用と報告書や教材への写真の活用ガイド、2007年6月.	本			
	保健分野の教育・啓発ボード、2009年2月.	本			
思春期クラブ					
	思春期クラブのガイド：思春期クラブを立ち上げよう・運営しよう、2009年8月.	本	本田		
ARH啓発のため地域の大人との協働で行う思春期プロモーターのIECピア活動					
	思春期プロモーター証明書兼研修・活動記録カード、2008年.	カード	高木		
	シナリオ、パンフレット、セッションチェックリスト：マギーエブロン、思春期プロモーターによるセッション用、2007年1月.	簡易製本、パンフレット、リスト	浅村		
	シナリオとパンフレット：赤ちゃんはどこから生まれるの？“おへその秘密”、保健スタッフによるセッション用、2009年1月.	簡易製本、パンフレット	浅村		
	妊娠シミュレーター活用ガイド、2008年7月.	簡易製本	山根		
	デートDVワークショップガイド、2008年.	本	高木、Ixchen Granada		
	“ARHのために協働で活動する”若者のイニシアティブを生かした若者と大人のパートナーシップに関するワークショップ報告書、2007年9月.	本	吉留、宮地、本田		
	大人と協働で実施する若者主体のARHプロモーション活動（チャルラと啓発イベント）の企画・実施・評価のためのガイド、2008年.	本	吉留、本田		
	HIV/AIDSに関する社会劇“きわどい事態”、中米エイズ会議2007上演.	DVD	JICA ニカラグア事務所		
	思春期若者のための思春期若者による活動の動画記録、SakuRA.プロジェクト、2009年.	DVD	高木、本田		
ARH分野の指標と統計システム					
	ARHのための指標基本ガイド、2009年1月.	本	高木		
	ARHに関するマンスリー報告の表、2009年1月.	リスト（印刷）	高木		
ARH分野のマネージメント					
	ARH分野のモニタリングガイド、2009年8月.	簡易製本	高木		
	SOJO モデルの手法 ステップ4、2006年.	簡易製本	岩永、高木		
	ARHのための市保健委員会の“ものさし”例、2007年-2008年.	リスト	岩永		
	プロジェクトの成果品および体系化された経験のガイドライン、2009年9月。（*）	簡易製本（ファイル形式）	高木		
	2012年までのARH活動宣言、2009年10月.	バナー	高木、本田		

注（\*）：このガイドラインは、プロジェクトの経験を体系化した「8つのガイドライン」から構成されており、このリストに挙げられた技術協力成果品も包括している。

